The University of Osaka
Institutional Knowledge Archive

Title	2021年度　意匠学会論文賞選考結果報告
Author(s)	今井, 美樹
Citation	デザイン理論. 2022, 80, p. 5-6
Version Type	VoR
URL	https://doi.org/10.18910/89270
rights	
Note	

The University of Osaka Institutional Knowledge Archive : OUKA

https://ir.library.osaka-u.ac.jp/

The University of Osaka

2021 年度　意匠学会論文賞 選考結果報告

学会賞選考委員会
副委員長　今井美樹

受賞論文
天貝義教
「1911 年トリノ万国博覧会と平山英三」

授賞理由

天貝義教氏の受賞論文「1911 年トリノ万国博覧会と平山英三」は，イタリア・トリノ万博に焦点を当て，平山英三の日記をひもときながら，彼の滞欧経験および帰国後の活動を調査し，平山の論説との関連を検証した論考である。

論文では，日本人として初めて 1870 年代にウィーンに学び，帰国後は工業図案の高等教育に携わった平山英三が，1911 年開催のトリノ万博に派遣された際，渡航期間の約 1 年間ほぼ毎日綴られた日記の記述に基づき，滞欧中のウィーン旅行における交友や談話，トリノ万博視察における日本および参加国の出品についての様子や評価を紹介し，その知見を日本の商品改良会の講評や報告に活用したことを明らかにした。

日記という新資料による平山の個人的・備忘録的な観点からの見聞記録は，洋式化を目指しつつも日本固有のデザインのあり方を模索する明治期の産業界の実態を伝えている。また，デザイン史において見過ごされがちな 20 世紀初頭のイタリア圏の博覧会に関して，出品物の意匠がアール・ヌーヴォーを経てセセッションあるいはアール・デコへの変遷を遂げようとする様子が観察されており，彼の各国のデザイン評と日本のデザインへの志向性が，後の視察談話や商品改良会の講評や報告書として帰結したことを，実証的に裏付けたことも評価された。

なお平山の日記は，当学会の会員である緒方康二氏より複写の提供を受けたもので，先にトリノ万博と平山の関係にも言及していた緒方氏の先行研究「明治とデザイン ── 平山英三をめぐって」（『デザイン理論』第 21 号所収，1982 年）を再評価する機会ともなった。

選考経緯

本論文賞は『デザイン理論』78 号，79 号に掲載の学術論文 5 編を対象とした。当該論文執筆者が選考委員であったため，作品賞選考委員の滝口洋子委員に代行依頼し，並木誠

士委員，竹内有子委員，畑中英二委員，今井美樹委員の５人が選考した。事前に各委員が上位２論文の選出とその理由を記述し，その結果をもとに後日，大森正夫委員長を交えディスカッションを行い，各論文を精査することで上記の選考結果を得た。